

高崎市立中尾中学校

平成 20 年 4 月 8 日 (火)

2 年国語科通信

「言葉は命」

〒370-0001 高崎市中尾町 791

No. 47(2年1号)

TEL 027-361-8810

発行人：新井国彦 阪本昌代

教科書以外の文章からも学ぶことあり！

まだ国語の授業もないのに、なんで国語科通信が出るのだろうと思う人もいますでしょう。でも、言葉を覚えるのは国語の授業だけではありません。むしろ生きた言葉が身につく、言葉に命が宿るのは、その人が折々に出会う場面や出来事、文章からです。

今年もみなさんの国語の授業は、私（新井）と阪本先生が担当します。いろいろな機会に、その時にふさわしい言葉を学べるよう工夫していきます。どうぞよろしくお願ひします。

さて今日は、私（新井）の知人で香川県にお住まいの宮脇 欣子さんの文章を紹介いたします。宮脇さんは、小学校の時の事故がもとで盲目となります。でも、そうした境遇の不安と不便を乗り越えて生き抜いてこられました。ここに掲載するのは、四国新聞に掲載された作品です。みなさんは、教科書ばかりでなく、こうした文章からも、言葉、人の生き方というものを学んでください。

新たな道

宮脇 欣子

目の見えない私が、毎日の生活の中で一番不自由に思うことは、活字が読めないことだ。活字と一言と言っても、日々届けられる郵便物から本や新聞、様々な書類からチラシ広告にまでいたる。

目の見える人であれば当然のように視覚を通して内容を知り、気付かない内に知識がより深い教養を育てて、心の栄養になっていく。

それらの情報を読んでもくれる人がいる場合には、情報障害に陥ることはないが、我が家の家族は皆、活字嫌いが揃っている。それは、私にとって情報を得る扉を大きく閉ざされて、社会から提供される無限の可能性の資料が入ってこないことになる。

私と同じような環境の人が多いために、一時期は視覚障害者は視覚の障害に合わせて情報障害者と言われた時代があった。

それが、パソコンの開発と普及により、視覚障害者の生活に光が注がれつつある。パソコンの画面に描かれた文字を音声化するソフトが開発されたのだった。そのお陰で、今では全く目が見えなくても字が書けて、スキャナーをパソコンに

繋ぐことで、完璧ではないが活字本が読めるようになったのである。

最近ではインターネットを通して、様々な情報が入手できるようになってきた。そのことで、全盲という障壁の中で固く閉ざされていた社会との情報の扉が広く開かれてきた。

インターネットを開けば、そこは情報の宝庫である。十数年前には、視覚障害者には辞書は皆無と言われていたが、そのような辞書もネットで調べることができる。

健全者が、ごく当然のように見ている新聞もネットで読むことができるようになった。初めて四国新聞の「コラム・一日一言」を誰の手も借りずに読めたときには、心の奥から感動が全身を駆けめぐって、喉を通過して、

「やったあ」

喜びが言葉になって口から舞い上がった。

パソコンが与えてくれる恩恵は、それだけではない。最近では、スカイプというソフトができています。このソフトをパソコンに入れるだけで、世界中どこへかけても、いつまでも無料で話ができる。

ヘッドホンから聞こえてくる話し相手の声は、まるで側にいるように耳に流れてくる。スカイプは人との心の繋がりや温かさを与えてくれた。それは、闇に一筋の光となって、孤独感を埋めてくれたのだった。

今ではパソコンは情報収集の道具と共に、社会の人たちとの心の交流の接点になっている。それは、新たな道となり、闇に閉ざされていた私の明日に希望の光を注いでくれる物となった。

この先、パソコンが与えてくれる新たな道にどのような希望の花が咲くのか。私の心は、蕾の中で春を待つ妖精のように、様々な色彩の花を想像しては胸をときめかせている。

~~~~~

# 秀句の広場

3月26日（水）  
上毛ジュニア俳壇掲載（5句中4句）